

令和4年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第五中学校

1年	【目指す授業】	学習したことを生かし、自分で考え他者に伝えることのできる授業。			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○復習する習慣がついておらず、小学校の学習内容も定着していない。漢字の部首や意味を確認させたり、学習してわかったことを表現、発信させたりすることが必要である。		○漢字の読み書きの小テストに、部首や反対の意味などを問う問題を加えたり、授業のまとめや単元のまとめとして意見文や学んだことを書かせたりし、学力の定着と向上を図る。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。		47.3%	65%	42.7%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		46.7%	65%	60.2%
	【評価】	成果と課題			
	C	○漢字テスト実施時などに形や意味の似た感じの説明等をしたが、定着していない。 今後、課題で取り組ませたり、該当分野の単元の復習をしたりして、改善を図る。 ○課題解決型の授業を行い、自分の考えをまとめさせ、クラスメイトに説明させることで、他者の考えを取り入れ、考えを深めることができるようになってきた。まだまだ改善は必須である。			

2年	【目指す授業】	メモを取りながら、発展的思考と意見表明を意識する授業。			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○全都の肯定回答の平均と比べ、軒並み低い水準となっている項目が多く、特に派生事項を確認、メモの習慣化、自分の考えを伝えるという習慣が著しく低い結果となった。		○繰り返す学習は比較的出来るという回答が多かったため、ワークシートにメモ欄、漢字の学習では発展課題を設置し、意見文を毎単元書かせる習慣化を継続して向上に繋げる。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	他の人の話を聞く時はメモを取って理解するようにしている		46%	65%	33%
	文章を読んで理解したことを他の人に説明している		46%	60%	35%
	【評価】	成果と課題			
	C	○教材の改良に努めたものの、前回よりも数値が下がり、メモの習慣化が急務となった。 ○意見文などは書く習慣ができたが、発表が代表生徒だけになり、全員の意識向上には繋がらなかった。			

3年	【目指す授業】	説明を聞き、重要なポイントをメモして見える化する力を付ける授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○授業中の教師の説明や解説を作業的に聞いている生徒が多く、それを理解を深めるために活用できていない。そのため、重要だと感じたことを自由な形でメモとして残し、理解したものの見える化を自分の力で工夫し、活用する力を身に付けさせる。		○単元や文章のジャンルにとらわれることなく、教科書や参考書にそのとき重要だと思った内容を図式的なメモとしてとらせることで、その学習内容の理解を深めさせ、基礎的な学力も含めた考える力と活用する力を身に付けさせる。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。		43.5%	60.0%	51.8%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		40.8%	60.0%	44.6%
	【評価】	成果と課題			
	B	○聞いた内容をメモする力はついたが、それをまとめ、理解につなげることが今後の課題である。 ○他者と考えを共有し、伝えることはできたが、さらに理解を深めることが今後の課題である。			

令和4年度授業改善推進プラン【数学】

学校名 武蔵村山市立第五中学校

1年	【目指す授業】	わかる・できるを増やし、脳に汗をかかせる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○小学校の内容に不足が見られる。 ○百ます計算は標準時間より遅い生徒が半数を超える。 ○授業で理解出来ても、家庭学習をしないため定着しない。		○単元に合わせ、小学校の内容を復習する。 ○朝学習に百ます計算を定期的に行い、計算力を高める。 ○自宅学習を促す、課題を設定し、実践する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している。		60.2%	70%	52.6%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		38.5%	60%	44.4%
	【評価】	成果と課題			
B	○間違い直しの機会を設け、繰り返し練習する習慣や態度を養う。 ○問題文から図や表を作成する時間を積極的に設け、見通しを持つ態度を養う。				

2年	【目指す授業】	学習したことを生かし、自ら考え、理解することがきる授業。			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○小学校及び中学1年生の内容に定着の不足が見られる。 ○授業で理解できても、家庭学習をしないため定着せず、分からないことが増えてしまう。		○毎時間授業の内容に合わせた復習を行う。 ○朝学習に東京ベーシックドリルなどを用いて演習を行い、基礎を定着させる。 ○自宅学習を促す。課題を設定し、実践する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	数学で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		44.7%	60%	52.9%
	テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している。		52.1%	70%	53.5%
	【評価】	成果と課題			
B	○自らの考えを説明するの機会をさらに設け、目標に向けて行っていく。 ○基本問題に繰り返し取り組む活動を朝学習や自宅学習で促していく。				

3年	【目指す授業】	主体的な活動を通して、論理的思考力を身に付けることができる授業。			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○単元によっては基礎の定着が図れていない。 ○授業の内容に関する知識や技能が不足しているため、授業の内容を理解できない。 ○授業で理解できていても、家庭学習をしないため定着しない。		○e ライブラリ等を用いて授業の内容に関連するところの基礎的な復習を行う。 ○授業で習ったところと同じ内容の家庭学習用の課題を設定し、実践する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	数学で学習する言葉や公式は、見ないでも言えるようにしている。		53.6%	65%	74%
	数学で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		43.1%	60%	49%
	【評価】	成果と課題			
B	○基本問題に繰り返し取り組んだことで、言葉や公式の定着が図れた。 ○数学の用語を用いて考え方を伝える場面をもっと多く設定する必要がある。				